

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第38回放送の概要 (2011年8月27日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM)「7つ 8つ 9つ とう といち」でおなじみの「十一の奈良漬」は、「灘の生一本」の酒粕に漬け込み仕上げた自慢の味です。食事の締めくくりに、サンドウィッチや巻寿司などにも御愛用ください。今日は、「十一の奈良漬」黒田食品さまの御協力を頂きました。

1. オープニング

さくらさんの親戚は仙台で被災されているが、現地の様子はいまだにガレキはそのまま、悪臭が漂い、行政の支援の遅さを痛感している。

8月23日に関西TVで秀吉の埋蔵金(200兆円?)の話が取り上げられ、なかちゃんが出演した。秀吉は大阪城にあった4億5千万両を摂津の国多田銀山の21ヶ所の坑道に埋めよという遺言を残していた。家来の銀山総奉行幡野三郎光照の遺書に埋めたことが書かれていた。新名神道路を作る工事に合わせて教育委員会が学術調査をただけのことである。なかちゃんの見解は豊臣家の財宝をそんなに目立つ所に埋めると徳川家康にすぐみつかるのでおかしい。だからあの場所はダミーである。

2. ゲストコーナー: 高松 悟さん (58 陽会) と息子の純一さん

本日のゲストは放送大好き親子さんです。息子の純一さんはFMわいわいで1997年からボランティアをされています。ボランティアを始めたきっかけは大学1回生の時父親からボランティア募集の新聞記事を見せられ応募した。「丸五でわいわい」という丸五市場でのサテライト番組を見学に行くと、現場はガラス張りでもなくすべてオープンな放送スタイルで、地域密着の、放送らしくない放送と言う印象を持ち興味を持った。幼稚園の頃からラジカセ、TVなどの機械いじりが好きで(説明書は読まず触って理解するタイプ)、小学生の時は放送機械をいじれるのがいいなと思っていた。中学、高校も放送部に所属し、そのようなことからFMわいわいに出会い13年間ボランティアをすることになった。

高松悟さんは子供の頃は体が弱かったため、運動会は競技に出ずに放送室でミキシングやレコードをかけたりしていた。1953年のTV本放送開始の年に生まれたことから放送とともに歩んできたという想いがある。高校時代の思い出は2年の終わりに大学紛争の流れで学園紛争が起きたことである。きっかけは先生の不用意な発言に端を発して授業改革、教育改革をやって行こうということになり、期末試験がなかったり、先生に自己批判をせよということで講堂に並んでもらったり、またある時は先生が監禁されていると警察に通報があった時、警察が学校に入り講堂から生徒の顔写真を撮ろうとした時先生が阻止するといったことが起きた。当時は教育の場に警察権力が入ることを先生が拒否をしていた時代であった。自主的に先生側からこういう授業をしよう、改革をしようという提案が出され、2~3カ月

授業をせずに話し合いを続けた。受験を目指していた生徒は学校に来ずに家で自習をし、このような紛争は邪魔であったと思っていたらしい。紛争は 1969 年の年末に始まったがその年の夏に放送委員会の先輩から生徒会長に立候補を薦められた。同じクラス（2 年 5 組）の演劇部の友達が応援演説をしてくれることになったが、締め切り間際に立候補者が現れその人が当選した。今考えると体が弱かったので定期戦でゆかりの旗を振りながら市民球場を走り回るのは考えられないのでよかったと思っている。中学の写真では葉の影響で顔はムーンフェイスであった。

学園紛争の結果「質素剛健」「自重自治」を尊重しようという学校側の考えから服装の自由化、政治活動もある程度認め、授業の邪魔をしなければビラ配りも OK ということになり、生徒側も自重しながらやっていくことになった。高松さんは 2 年生の途中からジャンパー、綿パンで登校していた。あこちゃんも他校の制服を着たり、夏は先生に敬意を表し T シャツではなく襟付きの服を着ていた。式などでは標準服を着ていた。学園紛争はその後夢野台や神戸高校に飛び火し始めたが、先生が賢く規制を緩和することで終息した。教育改革については 3 年生の授業時間 34 時間のうち半分以上が選択授業になった。放送委員会顧問の井田先生の物理実験は 450 人中 13 人が授業を選択した。このカリキュラムを作ることに尽力されたのが田中可志子先生で当時はパソコンがないので生徒全員の選択をパンチカードに入れてカリキュラムを作る手伝いをした。123 通りの選択が出来上がったが高松さんが選択した仕方は一人しかいなかった。書道、物理実験、どこでやってもよい数学などを選択した結果である。受験勉強はまったくせずに COBOL などを勉強し、3 年生は自由な学校生活を過ごした。

3. ミュージック：美空ひばり「スターダスト」

ひばりさんは特異な声帯を持っておられ声量、音域が研究対象になりうるほど素晴らしい。音楽を専門に勉強はされていないが耳がとてもよく国民栄誉賞を頂くほど歌が上手な方である。英語でジャズを歌っているのを知り、子供の頃に慰問をしていたこともあり子音がとてもきれいだったと思った。

4. ゲストコーナ（2）：高松 悟さん（58 陽会）と息子の純一さん

高松悟さんは小学 5 年から中学、高校は放送部そして大学は大阪芸術大学芸術学部放送学科に進んだ。高校紛争の流れを汲んで精神的に規制、既存のものに対する反発がある中、NHK 放送コンテストに 7 分間に規制された番組を提出した。番組編集は当時はオープンリールのテープを斜めに切り白い編集テープを貼ってつなげていた。7 分間に規制されたところで発表しても自分たちの言いたいことが言えないと考えた。浪人中の三越屋上での遊園地のアルバイト中、休みの月曜日に高校の部室に行き、新入生を屋上に上げて発声練習の指導をしていた。仲良くなった生徒を集め「9 つぶの涙」（メンバーが 9 人で喜びも悲しみも“涙”という意味）というヤングだけの放送番組発表会「ヤングアナウンスメント 73」を神戸勤労会館で開催した（1973 年 2 月 4 日）。殆どの高校に案内状を送り親和、鈴蘭台他の高校からも作品が出され、時間制限なしで発表し参加者全員で作品について討論した。このような発表会を年 2 回 6 年間（12 回程度）実施した。このような機会があったため他校の生徒とも新しい繋がりが出来、仲間はいいものだということを実感した。何かを立ち上げ何かを発信すれば色んな人と出会える良さを感じた。ディレクター志望であったので出来たことである。大学時代はサン TV でアルバイトをしていた。サン TV に何回かアルバイトありませんかと顔を出していたところ、スポーツ部のディレクターから声がかかり甲子園球場で中継の技術スタッフとして働いた。カメラを出し、パラボラアンテナを設置し、放送中はカメラのガードをし、終わると放送席のガードをした。腕章と腕だけが TV に流れそれを家で両親が見ていた。ゴルフや競馬中継、選挙の開票速報にも携わった。

高松さんの人生は縦は放送に関係する繋がりが、横の繋がりは学園紛争時の 2 年 5 組の同級生で、悩みや育った環境について話し合ったことである。2 年 5 組は毎年新年会を続けていたが新年会で修学旅行の話になり、修学旅行は信州であったため松本、黒部、りんご狩りなどをした思い出をたどる旅行をしようということになり「修学旅行 again」を企画した。今はみんな家庭があることから当時の 3 泊 4 日を 1 泊 2 日を 2 回に分けて実施することにし、2003 年にパート 1、2006 年にパート 2 を実施した。修

学旅行コースが終わった後はその次は修学旅行に行く途中の恵那峡に 2010 年に行った。いずれもバス旅行で、集合場所の湊川神社でバスの掲示を 2 年 5 組としていたため、集まるのはおっさん、おばさんばかりのためガイドさんから子供さんはいつ来られるのですかと聞かれた。またバス会社の用意した CD は若い人向けのものばかりであった。そんな事だろうと思いあらかじめひょっこりひょうたん島などの CD を用意しておいた。ひょっこりひょうたん島は 2 年 5 組のテーマソングで、これは高校時代の合唱コンクールで歌ったため、着メロにこの曲を使っている人が何人かいる。

1994 年 12 月 3 日にコンビニの仕事が福原柳筋の一筋東に変わり、翌年 1 月 17 日に阪神大震災に遭遇した。店は建物がしっかりしていたので棚が倒れる程度で被害は少なく、神戸医大が近いことから電気の復旧は早く、コンビニはガスを使わないので電気が復旧すると営業は可能になる。商品は前日に中央市場に発注していたので荷造りが出来た状態で到着しているため車でとりにいった。市場手前の運河の橋は段差が出来ており車の底をこすりながら到着した。無事な店は何軒もあり、翌日からは商品の争奪戦になった。カネテツ他の神戸の企業は被災していたが北陸地方他からは商品が入荷出来るので、肉まん、レンジでチンして食べられるもの、冷凍の明石焼き、赤飯などを仕入れて提供した。大福などを避難所に差し入れた。福原地域は重油で風呂を焚いているので地域の人に風呂を開放していた。従業員は炊き出しも行ってた。

大学の卒業論文でラジオの未来について書いた。ラジオには未来がある。テレビは衰退していく。今その通りになっている。ラジオの自由にしゃべれる雰囲気はラジオの特権。テレビはカメラなどの機材がたくさん必要であるがラジオはマイク 1 本でいける。

5. 中ちゃんの「こぼれた話こぼれなかった話」

本日のテーマは「回想、懐かしのラジオドラマ」です。テレビがまだ生活に入ってきていなかった時、団塊の世代以上の人々が楽しみにしてきたのはラジオドラマでした。今も多くの人の記憶に残っているのが、戦後からテレビが普及し始めた昭和 30 年代中ごろまでに放送されたものです。大人気になるとすぐに映画化されてそれを見てイメージが膨らみ主題歌が流行する、戦後の一大娯楽であった。どのようなラジオドラマが人気を博したのか紹介します。若い人にとっては初めて聴くこともあるでしょうが団塊の世代以前の我々には懐かしいものばかりです。

① 鐘の鳴る丘

昭和 22 年に放送。戦争で家も親も失った戦災孤児たちが街に溢れていた時に、復員した兵隊さんが信州の山あい少年の家を作り明日に向かって雄々しく生きて行く。主題歌は「緑の丘の赤い屋根、とんがり帽子の時計台、鐘が鳴りますキンコンカン・・・」

② 君の名は

昭和 27 年に放送。「君の名は」は空襲下の数寄屋橋で会った後宮春樹と氏家真知子のすれ違いドラマ。有名なナレーションは「忘却とは忘れ去ることなり、忘れ得ずして忘却を誓う心の悲しさよ」。15 分の連続番組で夕方には女性は殆どラジオにかじりつき、その時間女湯はガラガラになるというエピソードがある。ヒロインがマフラーを巻いたスタイルが「真知子巻き」としてファッションになった。主題歌は「君の名はと尋ねし人あり、その人の名も知らず・・・」

③ 笛吹童子

昭和 28 年に放送。時代小説「新諸国物語」シリーズのドラマ化で NHK 大河ドラマのはしり。丹波の国満月城が野武士集団に乗っ取られたのを武芸の達人の長男菖丸と笛の名手で笛吹童子と呼ばれた次男菊丸が妖術を駆使して城を取り戻す話。主題歌は「ヒヤラリヒヤラリコ、ヒヤリコヒヤラレロ・・・」

④ 紅孔雀

昭和 29 年に放送。同じく新諸国物語から主人公の那智小四郎と元海賊の網の長者と紅孔雀の秘宝の謎を解く黄金の鍵をめぐる、幻術遣いやしゃれこうべ党と戦う。主題歌は「まだ見ぬ国に住むという、紅きつばさの孔雀どり・・・」

⑤少年探偵団

昭和 31 年放送。江戸川乱歩の子供向け探偵小説。明智小五郎を助ける小林少年をトップに子供だけの探偵グループが主人公。敵役は怪人二十面相、グリコ森永事件の犯人が二十面相より上であるとして怪人二十一面相とふざけた。探偵団は七つ道具を持っている。万年筆型懐中電灯、万能ナイフ、絹ひも製縄梯子、万年筆型望遠鏡、時計、磁石、小型手帳と鉛筆、小型ピストル。主題歌は「ぼ、ぼ、僕らは少年探偵団、勇気りんりんるりの色・・・」

⑥赤胴鈴之助

昭和 32 年放送。父の形見の赤い胴を着けた北辰一刀流千葉周作道場の少年剣士。初めのナレーションは「う～む、ちょございな小僧め、名を、名をなのれい～」。主題歌は「剣を取っては日本一に、夢は大きな少年剣士・・・」

本当に懐かしいですね。ラジオだけにみんなが登場人物像をイメージし、映画と比較して合ってる合っていないと談義したものです。現在でもTVドラマにリメイクされたり数々の世情やギャグのベースになったりしています。

6. 来週のゲスト

来週のゲストは神戸大学ボランティアセンターの藤室玲治さんにお越しいただきます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com